



社会福祉法人 長野県社会福祉協議会

「福祉だより信州」は共同募金の
配分金で発行されています。

昭和27年1月11日
第三種郵便物認可第754号
平成30年3月25日発行
(毎月25日発行)

福祉だより 信州



CONTENTS

今月のフクシちゃん	2
県社協からのイチオシ情報	4
公益事業の推進に向けて	6
WEB INFORMATION	7
住民主体の福祉活動	8

中野市出身。幼少期から同居する祖父母と親しみ、自宅で両親とともに祖母の介護をするうちに、もっと介護の知識を付けようと、佐久市の信州短期大学福祉学科に進学。介護福祉士取得。平成26年、木島平村在住で同じく介護福祉士でもある叔母の勧めもあり、卒業と同時に開所した「特別養護老人ホーム里山の家木島平」に入職。現在はユニットリーダーも務める。

毎日さまざまな「ありがとう」が聞け、
元気と癒しをもらえるやりがいがあります



毎月福祉の現場で活躍する若手スタッフをご紹介します。

社会福祉法人みゆき福祉会
特別養護老人ホーム里山の家木島平
介護福祉士
渡辺美咲さん



平 成26年に木島平村旧北部小学校を改築し、地域密着型の特別養護老人ホームとして開所した「里山の家木島平」。入居者が自宅にいるような環境づくりと、一人ひとりの個性や生活リズムに沿った個別ケア(ユニットケア)を大切にしています。例えば、入居者は家族の許可のもと、希望に応じて職員と一対一で近隣のショッピングモールや飲食店、温泉などに出かけるほか、誕生日の入居者がいればユニット全員で回転寿司を食べに出かけることも。また、施設内ではリハビリを兼ねて入居者が洗濯や漬物作りをしたり、職員と一緒に季節のおやつを作ったりと、自由に過ごすことができます。

「毎日入居者さんの違う表情が見れ、私も元気をもらえて癒されますし、日々楽しいです。それに、この仕事だからこそ入居者さんからも職員からもいろいろな『ありがとう』を聞け、役立っている実感できることもやりがいです」

こう話すのが、開所当初から介護福祉士として働く渡辺美咲さん。高校時代に実家での祖母の介護を通じ、もっと知識をつけて家族の力になりたいの思いでこの仕事をめざすようになり、常に笑顔で心掛けて働く今は「職員のごことで悩んだことはない」というほどチームワークがよい職場で充実した日々を過ごしています。

ます。そんな渡辺さんも、今年で入職5年目を迎えます。

「これまでに苦労したのは認知症の方の対応です。習ってきたことが全く通用せず、一人ひとりにかける言葉を変えるなどマニュアル通りにはいかなないと実感しました。そうしたなかで昨年は喀痰吸引の資格を取得し、この流れから今後は入居者さんのよりよい環境づくりのためにも福祉住環境コーディネーターなど、ほかの介護関係の資格取得も見据えています。大きな目標がケアマネの資格を取ること。こうした勉強を通じ、認知症の対応を含め、さらなるスキルアップをしていきたいです」



これまでに印象に残っているのは、女性に対して抵抗をもっていた男性入居者とのやりとり。最初の頃は介護を拒否されましたが、距離感を大切にしながら必要に応じて寄り添い、長く関わっていくうちに、今では会うと手を振って迎えてくれるようになったとか。「笑顔を大切に、諦めずに接し続けてよかった」と、この時の経験が渡辺さんの励みになっています。

やりがいも刺激もある楽しい毎日

自分の家族も利用したくなる施設に

楽しみを自らつくっていただける仕事

介護の仕事は大変というイメージがありますが、実際は大変な面よりも人生の先輩である入居者さんとの関わりがとても楽しく、余暇時には自分が知らない昔のことや礼儀なども教えていただけるやりがいがあります。また、外出など一緒に取り組めることが多いのは、この施設ならではの魅力。それに、ここは小学校だった頃の名残もあるので、地域の人にもどう変わったか見に来てもらえたらうれしいですね。



小田切和明さん
(介護福祉士)

この施設は従来型と異なり、入居者への制限がなく希望をすぐに叶えられるなど今までは違うケアができるので、職員も楽しく大きなやりがいがあります。また、普段ソフト食を食べている入居者も外出時に好きなものを食べると普通の食事ができたりと、発見があるのも醍醐味。これから入居者目線を大切に、自分の家族が使った時にうれしいと感じる場所にしていきたいです。



伊東けさこさん
(介護福祉士)

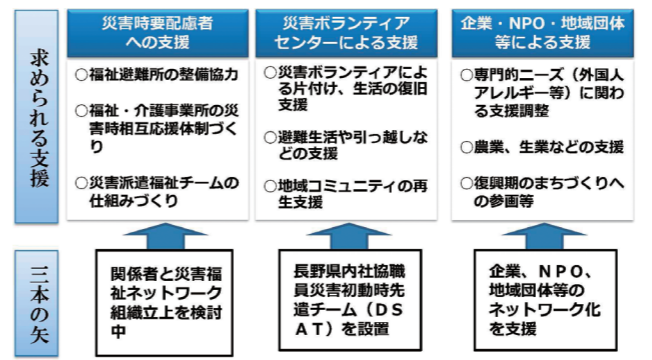
以前は大きな施設で働いていましたが、ユニットケアに惹かれて、この施設に入職しました。今は職員みんなが施設を盛り立てる雰囲気、入居者と一緒に楽しむことを意識し、とにかく日々楽しいです。職員の楽しさは入居者にも伝わっているようですし、一人ひとりの思いを叶えてあげられるこの施設なら、自分の家族も任せられます。そんな施設で働けることは幸せだと感じています。

大規模災害に備える「二本の矢」

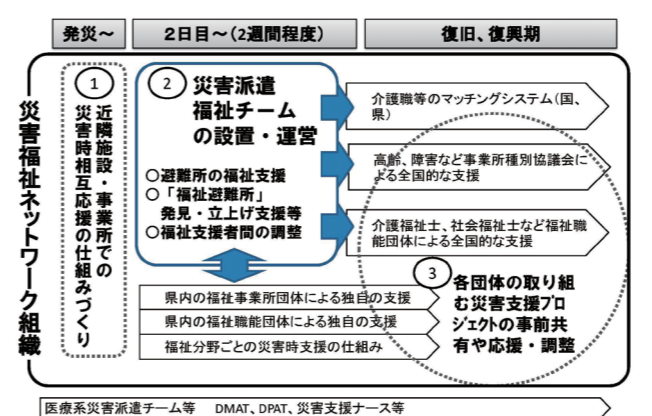
長野県社協が進める災害福祉事業について

1 二本の矢とは？

日本列島のどこかで毎年必ず発生している自然災害。いつ発生するか予測できない災害に対し、各地の社協や福祉介護事業所でも平時からの備えが求められています。



大規模災害 長野県社協の3つの備え



「災害福祉ネットワーク組織」が目指すもの (長野県社協作成)

2 「災害時要配慮者支援のための「災害福祉ネットワーク組織」

す。本会では災害時の要配慮者支援、災害ボランティア活動、企業・NPO等による被災地支援活動を「二本の矢」と位置付け、「災害福祉ネットワーク組織の立ち上げ」「長野県内社協職員災害初動時先遣チーム(DSAT)の運営」「企業・NPO等のネットワーク化支援」に取り組んでいます。

災害発生時、高齢者、障がい者、など「災害時要配慮者」といわれる方の生活をどう支えるかが課題となります。県内では昨年3月末現在、延べ650箇所の福祉避難所が指定されています。福祉避難所を有効に運営するには、①その地域の災害時要配慮者をあらかじめ把握し、②福祉避難所の存在と役割を住民に周知し、③福祉避難所を運営できるスタッフを確保し、④運営に必要な物品等を確保しておくこと、等が求められます。福祉介護事業所が福祉避難所に指定されることも少なくありませんが、福祉現場からは「指定されただけで、どのように運営するのか指示もなく、検討も始めている」「指定されたこと自体、知らない職員が多い」などの声が聞かれることもあります。そんな中、本会では平成28年度から、



「長野県災害ふくしチーム」立ち上げに向け、関係者と協議しました

県内の福祉介護事業所団体、福祉専門職団体に呼びかけ、「災害福祉ネットワーク組織」の立ち上げを検討しています。このネットワーク組織には、災害時に指定福祉避難所が機能できるよう、福祉事業所間で相互支援の仕組みづくりを行うことや、県や市町村への提案事項をまとめていく役割が期待されます。また、この組織を母体として、災害時要配慮者支援のために欠かせない介護や相談支援など専門職支援者を調整するため、災害派遣福祉チームの設置、養成を検討しています。本会では関係団体と協力して、平成30年度、この災害福祉ネットワーク組織立ち上げを目指しています。

3 災害ボランティアセンター立ち上げを支援するDSATの役割

各自治体の地域防災計画では、災害発生時、多くの社協が災害ボランティアセンターを運営することとなっています。ですが、災害発生時にセンターを立ち上げることは大変な労力を要します。そこで災害ボランティアセンターの立ち上げに慣れたスタッフを被災直後に被災地社協へ派遣し、円滑な立ち上げを進めるため、「長野県内社協職員災害初動時における先遣チーム(DSAT)」

を結成しました。DSATの主な役割は災害初動時の災害ボランティアセンター立ち上げ・運営支援です。派遣までの流れは、①発災翌日までに被災市町村社協へ入り、被害状況の把握等を行い、災害ボランティアセンター立ち上げの必要性やDSATスタッフ派遣の必要性を判断する、②スタッフ派遣が必要と判断された場合、「第1層」クラスのDSATスタッフを被災市町村社協へ派遣し、災害ボランティアセンター立ち上げに向けた準備・調整を行う、③センター立ち上げ後は「第2層」クラスのDSATスタッフを派遣し、センターの円滑な運営やニーズ把握のための活動を進める、というものです。

4 企業・NPO・地域団体等との連携による被災地支援活動

「第1層」とは災害ボランティアセンター立ち上げに関する知識・経験の豊かなスーパーバイザークラスのスタッフ、「第2層」とは災害ボランティアセンターリーダーの補佐役として運営支援ができるスタッフを指します。本会では今年3月に実施した「災害ボランティアセンター運営支援者研修」を皮切りに、NPO法人さくらネット(兵庫県西宮市)代表理事の石井布紀子氏の指導により、現DSATスタッフすべてが第2層以上の知識・技術となるよう、引き続き研修を実施します。

東日本大震災を経て、NPO、NGOなどの多様な民間団体が、組織力を活かした被災地支援に取り組むようになっていきました。社協災害ボランティアセンターではなかなか調整しきれない特別なニーズ、例えば、外国籍住民支援や、アレルギーのある避難者への支援、農業や生業への支援、まちづくり支援などに、各団体の専門性を活かした支援が展開されています。また、熊本地震の際には、経験を積んだ団体が、避難所の運営を担った例も報告されています。大規模災害が発生した場合、このような民間団体の力を活かせるよう、市町村における受援体制の整備や、多様な団体をマッチングする平時からの仕組みづくりが課題です。



「災害時の連携を考える長野県フォーラム」では参加者が互いに知り合うことを目的に情報交換を行いました

をテーマに情報交換しながら、全国的な動向も学びました。今後、県内での大規模災害発生を想定して、どのように被災地ニーズを把握し、多様な団体とマッチングしていくべきか、シミュレーションを重ねる予定です。

5 県行政との連携

今年1月、本会では長野県生活協同組合連合会、長野県NPOセンターとの共催により、「災害時の連携を考える長野県フォーラム」を長野市内で開催しました。県内の企業、NPO法人、公益団体、防災関係者、そして行政関係者など90団体約200名が参加し、災害時の連携に向けて、まずは「お互いを知り合う」こと

本会では、県や市町村の防災計画や、現在、県が策定を進めている「広域受援計画」の策定に参画し、この災害福祉支援に関わる3つの備えが有効に機能するよう、県や各団体とも連携しながら、引き続き取り組んでまいります。

区分	役割	求められるスキル・経験
第1層	災害福祉支援スーパーバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ○災害VCの立ち上げ、対応フェーズの移行、最終期の助言ができる。 ○被災地社協の災害対応、事業継続を総合的に助言できる。 ○被災地の福祉専門職支援活動の企画、調整ができる。 ○福祉、建築、法律等多様な専門職支援者との連携し、役割分担の核となる。 ○社協や福祉関係者の防災研修の企画、運営の核となる。
第2層	災害Vセンター運営支援者	<ul style="list-style-type: none"> ○災害VCリーダーの補佐、助言ができる。 ○多様な災害ボランティア・NPOとの連携、団体間のトラブル対応ができる。 ○福祉、建築、法律等の専門職支援者と連携ができる。 ○ブロック内で、社協の関係研修やDSATのチームづくりの企画、運営ができる。
第3層	災害Vセンター運営スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ○災害VCの各部門リーダーとして活動できる。 ○DSATメンバーとして、災害VCの運営スタッフとして活動できる。 ○多様な災害VCでのスタッフ経験、災害ボランティアとしての活動経験を積む。 ○自社協の防災研修や、災害にそなえた地域福祉活動を企画、実施できる。

DSATスタッフ各階層別に求められるスキル・経験(長野県社協作成)

WEB INFORMATION

小中学生ボランティア新聞「やまびこだより」後期号を発行しました。



小学生版「*ポッチャ。って知ってる?」では、障がいのある人もない人も誰もが楽しめる「ユニバーサルスポーツ」について特集しています。東御市では「ポッチャ」とおして、誰もが「参加」し「交流」できる地域の繋がりに取り組んでいます。

中学生版「地域から学ぶ私たちの未来」では、宮田村立宮田中学校の総合的な学習の時間「プラムタイム」の取り組みを紹介しています。3年間をとおし宮田村の「もの・ひと・こと」を学び、得た気付きから主体的な取り組みを数多く行っています。

様々な人との関わりの中で「共に生きる力」を育てていく子どもたち、そしてその姿から大人も学ぶことが多いと改めて感じる後期号、ぜひご覧ください。

本誌をご希望の方は下記までご連絡ください。また、ホームページではバックナンバーも公開し、音訳版もお聞きいただけます。

http://www.nsyakyo.or.jp/modules/vola_contents/index4_6_18_p662.html#p662

連絡先／長野県社会福祉協議会
地域福祉部 地域福祉グループ
TEL 026-226-1882



「長野県あんしん創造ねっと」で 3名が新生活をスタート!



平成29年10月より県社協と県内市町村社協が共同で取り組む、県内社協公益事業「長野県あんしん創造ねっと」の身元保証事業、入居保証事業を利用して、平成29年度、3名の方が新生活をスタートされました。ご利用の相談は長野県社協総務企画部、県内各地のまいさばまでご相談下さい。

- 中信** 事例 まいさばの就労支援により就職が決まりました、本人は単身で身元保証人がいないという事情があり、「身元保証事業」により創造ねっとが身元保証契約を結び、新しい職場での就労をスタートすることができました。
- 南信** 事例 勤務先の社長が保証人となりアパートに入居していましたが、その会社を退職したため保証人の継続が困難となり、まいさばに相談がありました。あんしん創造ねっとの入居保証事業により入居継続が可能となりました。
- 東信** 事例 病気により就労継続が困難となったため、家を手放しアパートに住むこととなりましたが、保証人が立てられず住居確保給付金の支給期間だけ入居が認められていました。支給終了が近づきまいさばに相談したところ、まいさばの支援により就労が決定し、あわせてあんしん創造ねっとの入居保証事業を利用して入居継続が可能となりました。

平成30年度 社会福祉施設 総合損害補償 **しせつの損害補償**

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の **事故・紛争円満解決のために!**

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険)

賠償事故	基本補償(A型)		見舞費用付補償(B型)	
	対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	対物賠償(1事故)	2,000万円
受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円	うち現金支払限度額(期間中)	20万円
人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円
新設 稼働時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円	事故対応特別費用(期間中)	500万円
被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度	被害見舞費用	死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円

◆30年度新設 クレーム対応サポート補償(プラン1-①オプション4)

●この案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
〈引受幹事〉損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

平成30年度 **全国200万人 加入!!**

保険金額 年間保険料(1名あたり)

ケガの補償	Aプラン		Bプラン	
	死亡保険金	1,040万円	1,400万円	1,400万円
ケガの補償	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)	1,400万円(限度額)	
	入院保険金日額	6,500円	10,000円	
ケガの補償	手術保険金	65,000円	100,000円	
	外来の手術	32,500円	50,000円	
ケガの補償	通院保険金日額	4,000円	6,000円	
賠償責任	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ		
賠償責任	葬祭費用保険金(特定感染症)	300万円(限度額)		
賠償責任	賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)		



ボランティア行事用保険 送迎サービス補償 福祉サービス総合補償

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
〈引受幹事〉損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
営業時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

住民主体の福祉活動 地域づくりレポート

自分の住む地域を魅力あふれる地域にするための人づくり ～諏訪市四賀地区「しがっ子クラブ」の取り組み～



上：みんなでアレチウリの駆除活動

右：「しがっ子クラブ」のOBスタッフが、地域の方にアレチウリの生態を説明



連絡先／しがっ子クラブ
(事務局長 小池玲子さん)
E-mail reico825@po26.lcv.ne.jp

諏訪市四賀地区に、自分の住む地域に誇り・愛着を持ち地域に根差した子ども育成を目指して活動する団体「しがっ子クラブ」があります。

しがっ子クラブは四賀小学校の児童を対象に、家族や地域の方と一緒に川の清掃、川で遊ぶ、地域の大人が講師となり工作を楽しむ、おもちゃ作りなどを通して地域の方々と交流する、地域を探検して災害史を学びハザードマップを作る、等の活動を行っています。

四賀地区を流れる上川は、平成18年

豪雨災害の後、河川敷に「アレチウリ」が繁茂し、生態系破壊が問題となっています。そんな中、しがっ子クラブを卒業した中高生有志からの呼びかけもあり、平成19からはアレチウリ駆除にも取り組んでいます。近年では諏訪市や諏訪市社協との協働も進み、駆除活動に市民や学生等が参加するといった広がりも出てきました。

しがっ子クラブの活動により、四賀を魅力あふれる地域にしたいと思う人が確実に育っています。

今月の逸品

牛乳・酒パックいす

不要なパックを回収し、丈夫なイスに仕上げています。エフォートマシュマロでは企業からの受託作業、しいたけ栽培、お菓子作り、縫製、木工製品の製作等を行っております。市内のイベントなどで自主製品の販売もしております。

NPO法人マシュマロ エフォートマシュマロ
〒399-0744 塩尻市大門71-1
TEL 0263-54-3523 FAX 0263-88-4820



webでも
ご覧になれます

情報掲示板

県社協からのお知らせ

- 次号の福祉だより信州は5月、6月合併号となり、発行日が5月25日となりますのでご了承下さい。
- 広島市社会福祉協議会の所在地の変更について
【新所在地】
〒732-0822 広島県広島市南区松原町5番1号
広島市総合福祉センター内(BIG FRONT ひろしま6階)
TEL / 082-264-6408
FAX / 082-264-6416
E-mail / voinfo@shakyohiroshima-city.or.jp

新着助成金情報

- 平成30年度「助成事業」
問い合わせ先 / (公財)カメイ社会教育振興財団
応募締切 / 平成30年4月22日
TEL / 022-264-6543
URL / <http://www.kameimuseum.or.jp/foundation/>
- 地域チャレンジ活動助成
問い合わせ先 / 日本生命財団
応募締切 / 平成30年5月31日
TEL / 06-6204-4013
URL / <http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp/kourei/02.html>

- ご感想、お問合せ、掲載希望等は下記へお寄せください。

長野県社会福祉協議会
総務企画部 総務グループ
TEL 026-228-4244 FAX 026-228-0130
E-mail soumu@nsyakyo.or.jp

webでも
ご覧になれます



ざわめくアート



市川 久寛 72歳 松本市在住

市川さんが暮らす福祉施設で開かれる月一回のアートワークでは、大きなテーブルを囲んで十人ほどの参加メンバーさんがワイワイガヤガヤと思いに絵を描く。市川さんはテーブルの隅で、黙々とクレヨンで絵を描いている。毎回同じパターンなのだが、そこにはいつも人が描かれている。いったい誰を描いているんだろうか？市川さんに聞いてもニコニコと笑うばかりで応えてはくれない。もう縁遠くなってしまった家族だろうか？子供のころの友達だろうか？日々暮らしを共にする仲間たちだろうか？きっと描かれている一人一人にそれぞれのモノガタリがあるんだろう。